

分野・専門名：言語学

試験科目：言語学

【正解・解答例】

問 1

図 B である。

図 A 中の子音は VOT 値が正、図 B では負となっている。任意の一言語における /t/ と /d/ の（音韻的な）別が VOT 値の正負の別と対応するとは限らないが、この問題の場合は、/tə/ と /də/ の波形およびスペクトログラムが同一の言語から採られており、かつ調音点（おそらく）同じくする破裂音の、VOT 値が相対的に高い方に /d/ の記号を充て、相対的に低い方に /t/ を充てることは（慣習上）考えにくいいため、図 B が /də/ の波形およびスペクトログラムであると推測できる。

問 2

解答のポイント。

・「歩いている」「落ちている」「とがっている」のような動詞形式は、テイル形と呼ばれる。テイル形の解釈には、「進行」（ヒロシが歩いている）、「結果状態」（プリンターが壊れている）、「反復・習慣」（あの人は高校で英語を教えている）、「単純状態」（その発言は事実と異なっている）など複数のものがある。

・状態変化を表す自動詞（たとえば「落ちる」）のテイル形は、結果状態解釈を受けることが多い。しかし、「曲がる」「歪む」「とがる」といった状態変化動詞のテイル形は、単純状態解釈も許容する。

・「この棒は曲がっている」のような例では、もともとまっすぐだった棒が変化したという解釈（結果状態解釈）が自然にできる。一方、「この鳥のくちばしは曲がっている」の場合、もともとまっすぐだったくちばしの形状が変化することは一般に考えにくいいため、単純状態解釈が優勢になる。

問 3

1 klaŋ, 2 klen, 3 kim, 4 kin, 5 kiŋ, 6 kloŋ, 7 klum, 8 laŋ, 9 len, 10 lim, 11 loŋ, 12 lum, 13 plaŋ, 14 plen, 15 plim, 16 ploŋ, 17 plum。

起きた音変化の可能性を複数考えたうえで、もっとも可能性が高いと考えられる音変化を選び、同源語の祖形を再建する。鼻音化、口蓋化、子音連続の簡略化などを考慮して解答を導く。

問 4

(i)

共時態とは、言語の特定の時点における状態のことであり、言語を静的に捉える視点で見ている。一方、通時態とは、言語の時間的な変化の相のことであり、言語を動的に捉える視点で見ている。ソシュールは「一般言語学講義」において、共時的研究と通時的研究を混同してはならず、共時的研究を通時的研究より優先すべきであると主張した。

(ii)

拘束形態素とは、単独では単語として用いられず、必ず他の形態素と結合して用いられる形態素である。接辞は一般に拘束形態素である。たとえば、日本語の「おかね」の「お」や、「見る」の「る」などがその例である。これに対して語根には拘束形態素と自由形態素どちらもある。拘束形態素である語根の例としては、日本語の「見る」の「み」などがある。英語の「cranberry」における「cran」は、この単語にしか現れない拘束形態素であり、クランベリー形態素、唯一形態素と呼ばれる。

(iii)

性と数は、多くの言語で見られる名詞の文法的カテゴリーである。英語における単数・複数の区別は文法的数の一例である。現代の英語では一般名詞には文法的性の区別がないが、単数代名詞には男性(he)・女性(she)・中性(it)の区別がある。フランス語やドイツ語では、一般名詞にも性の区別がある。文法的性・数は、しばしば冠詞、形容詞や動詞との一致を引き起こす。たとえば、フランス語では単数・男性の名詞には定冠詞 le が用いられるのに対して、単数・女性の名詞には la、複数名詞には les が用いられる。

(iv)

直示表現とは、発話の文脈に依存して指すものが変化する表現を指す。直示表現には、人称に関わるもの、時間に関わるもの、空間に関わるものなどがある。人称代名詞の I や you は人称に関わる直示表現の例であり、「誰が誰に対して話しかけているか」という文脈状況に応じて指示対象が変化する。時間に関わる直示表現の例としては、副詞の now や未来時制を表す助動詞 will、空間に関わる直示表現としては指示詞の this/that や移動動詞の go/come が挙げられる。

分野・専門名：言語学

試験科目：言語学

【出題の意図】

問 1

音声学・音韻論における基礎的知識と基礎的分析能力を問う。

問 2

文法論・意味論における基礎的知識と基礎的分析能力を問う。

問 3

歴史言語学における基礎的知識と基礎的分析能力を問う。

問 4

言語学の術語の基礎的理解を問う。

分野・専門名： 日本語学

試験科目：日本語学・古文解釈・日本語資料解説

【正解・解答例】

問題 1. 日本語学

(一)「日本語学」日本語学の各分野領域の専門用語について説明する。

(1) いろは歌……音声音韻史および日本語学史資料の一つとして、その意義、位置づけについて適確に説明する。

(2) ムードとモダリティ……日本語の研究において相互に関係する用語について、それぞれ適確に説明する。

(3) メトニミー……比喻の一類、意味分析の観点の一つとして、適確に説明する。

解答のポイントは下記のとおり。

- ① 適切な具体例を示しているか。
- ② 研究史をふまえた説明がなされているか。
- ③ 適切な専門用語を用い、要点をおさえて論理的な説明がなされているか。
- ④ 必要に応じて、関連の用語や諸説に言及しているか。

(二) 日本語学の基本的かつ重要な諸現象や論点の一つとして、上代日本語の様相・特徴・研究史などについて論述する。

解答のポイントは下記のとおり。

- ① 適切な具体例を示しているか。
- ② 適切な専門用語を用い、要点をおさえて論理的な説明がなされているか。
- ③ わかりやすく（明晰・明瞭かつ）正確な文章で論述がなされているか。
- ④ 必要に応じて、関連の用語や諸説、隣接分野の知見に言及しているか。

問題 2. 古文解釈

『土佐日記』の一節を現代日本語に翻訳する。

解答のポイントは下記のとおり。

- ① 古代日本語に関する基本的な知識を有し、中古の和文、また和歌を、現代日本語にとし
て適当な表現で訳すことができているか。
- ② 日本語史・日本文学に関する広範で基本的な知識を有しているか。
- ③ 『土佐日記』の成立事情をふまえ、人物関係の正確な読み取りができているか。

問題 3. 日本語資料解説

享和 3（1803）年頃成立、鈴木朧著『活語断続譜』について説明する。

解答のポイントは下記のとおり。

- ①『活語断続譜』の基本的な事項（著者、成立時期、内容等）を理解しているか。
- ②江戸時代における活用研究の歴史についての知識を有し、その中に『活語断続譜』を位置づけることができているか。
- ③著者の鈴木朧についての知識を有しているか。
- ④『活語断続譜』が近代以降の文法研究に与えた影響について把握しているか。

分野・専門名： 日本語学

試験科目：日本語学・古文解釈・日本語資料解説

【出題の意図】

問題 1. 日本語学

名古屋大学大学院人文学研究科のアドミSSION・ポリシーをふまえ、人文学各分野の研究に必要とされる基礎的学力及び専門的知識、特に、日本語学分野・専門において必要な、各分野領域の専門用語および上代から近現代に至るまでの日本語史、日本語学史に関する知識をはかる。

問題 2. 古文解釈

名古屋大学大学院人文学研究科のアドミSSION・ポリシーをふまえ、人文学各分野の研究に必要とされる基礎的学力及び専門的知識、特に、日本語の古文を正確に解釈し、現代日本語に翻訳する知識と能力をはかる。

問題 3. 日本語資料解説

名古屋大学大学院人文学研究科のアドミSSION・ポリシーをふまえ、人文学各分野の研究に必要とされる基礎的学力及び専門的知識、特に、日本語学史資料についての基礎知識をはかる。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目：

【正解・解答例】

問1

いずれの条件文も，条件節の内容は同じである。よって，違いは主節の構文的な特徴の違いということになる。それぞれの条件文の主節に，どのような構文的特徴（モダリティ表現や述語のタイプなど）があるかを説明し，どのようなことを表現したい場合にそれぞれが用いられるかを説明する。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目：

【出題の意図】

問 1

日本語の文法形式について、意味の違いを構文的な特徴と関係づけて考察することができるかを見るための問題です。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目： 専門科目

【正解・解答例】

問 2

- (1) 認知言語学において、「ことばの意味」がどのように特徴付けられるかを踏まえ、背景となる別の語を思い浮かべなければ意味を説明することができないような語の例や同一の物事の異なる部分に注目している複数の語または文の例を挙げて説明する。
- (2) 認知言語学の「非還元主義」を踏まえ、合成語の例を複数挙げて、合成語全体の意味とその構成要素の意味に着目しながら、複数の例の意味のあり方の違いを説明する。
- (3) 第二言語習得研究における「インターアクション仮説」を踏まえ、どのようなときに何を目的として起きるやりとりのことか、そのようなやりとりには具体的にどのようなものがあるかを説明する。
- (4) 第二言語習得研究における「フィードバック」の分類を踏まえ、学習者の発話とそれに対する教師のフィードバックの具体例を挙げ、どのようなフィードバックであるかを、その長所・短所とともに説明する。
- (5) 発話場面の情報を考慮しなければ解釈できないような言語表現の例を挙げて、どのような情報を考慮しなければならないかを説明する。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目： 専門試験

【出題の意図】

問 2

この問題は、認知言語学、第二言語習得研究、語用論（日本語学/言語学）についての基本的知識があるか、限られた字数の日本語で、論理的に、的確に、正確に説明する力があるかを問う。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目： 専門試験

【正解・解答例】

問3

自然会話の研究において、映像データ（視覚情報を含むビデオ収録データ）を分析に用いる場合の可能性と課題の両面について、技術、方法論、倫理、分析の精度の4点それぞれについて論じる。その際、会話の音声データ（音声のみが収録されたデータ）を分析に用いる場合との違いを明確にする。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目： 専門試験

【出題の意図】 問3

会話（相互行為）研究において、音声のみならず視覚的情報をも扱うことによる分析の広がりについて理解しているか、および、音声と映像を含むマルチモーダルデータを扱う際の実践的な知識と課題認識を持っているかについて問う。技術的・分析的可能性と課題を理解するのみならず、研究倫理やプライバシー保護など社会的責任についても考慮できる研究者としての素養も確認する。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目： _____

【正解·解答例】

問 4

発話の意味に影響する文脈（コンテキスト）上の要因として、発話に伴う身体動作（ジェスチャー、視線等）、物理的環境、先行談話、話し手や聞き手の知識状態などを挙げる。その上で、具体的な文例を用いながら、それぞれの要因がどのように発話の意味に影響するかを説明する。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目：

【出題の意図】

問 4

文脈（コンテキスト）は、実際の言語使用の場面で産出される発話の意味を、聞き手がどのように理解するのかを探究する上で中心的な位置を占める。発話の意味に影響する文脈（コンテキスト）上の要因についての基本的な理解を問う設問である。

分野・専門名： 日本語教育学分野

試験科目：

【正解・解答例】

問5 日本語の「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」はいずれもある事柄の程度が高いことを表すが、取りうる前接語に違いがある。これを踏まえ、3語に前接する動詞や形容詞の共通点と相違点を考慮しながら、「ならない」、「たまらない」、「しかたがない」の基本義を踏まえて解答を導く。

分野・専門名： 日本語教育学分野

試験科目：

【出題の意図】

問5 与えられた言語データをもとに、語構成の規則が導き出せるかを問う問題である。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目：

【正解・解答例】

問 6

(6-1)は、意味、機能的に異なる使役文だと思うものをグループに分ける。どのような分類でもかまわない。

(6-2)では、それぞれのグループについて、どのような意味と構文的な特徴があるのかを説明する。例えば、それぞれのグループはどのような「使役」の意味を表しているか、「使役」の意味の違いを述べる。その上で、主語（使役者）の特徴、使役対象の特徴、動詞の特徴（意志性の有無など）などを、意味的な特徴と結び付けて考察できるかどうかを採点のポイントとしている。

分野・専門名： 日本語教育学

試験科目：

【出題の意図】

問 6

日本語の文法形式について、意味の違いを構文的な特徴と関係づけて考察することができるかを見るための問題です。

分野・専門名： 応用日本語学

試験科目：

【正解・解答例】

問題 1

内容面（専門知識を正確に理解しているか、問題の要件を満たしているか）、論述面（論理的な文章の構成になっているか、語彙や文法は適切に使用されているか）により、総合的に評価される。

問題 2

内容面（専門知識を正確に理解しているか、問題の要件を満たしているか）、論述面（論理的な文章の構成になっているか、語彙や文法は適切に使用されているか）により、総合的に評価される。

問題 3

内容面（専門知識を正確に理解しているか、問題の要件を満たしているか）、論述面（論理的な文章の構成になっているか、語彙や文法は適切に使用されているか）により、総合的に評価される。

問題 4

内容面（専門知識を正確に理解しているか、問題の要件を満たしているか）、論述面（論理的な文章の構成になっているか、語彙や文法は適切に使用されているか）により、総合的に評価される。

分野・専門名： 応用日本語学

試験科目：

【出題の意図】

問題 1

応用日本語学における専門用語を正確に理解した上で、その要点を適切に説明できるかを問う。

問題 2

日本語学における「新情報」「旧情報」の概念を理解した上で、日本語教育における文法の諸項目と関連付け、それを適切に説明できるかを問う。

問題 3

日本語教育における日本文化・日本事情の扱いについて、自身で具体的な状況を設定し、説明できるかを問う。

問題 4

日本語教育における「シラバス」の概念を理解した上で、シラバスの種類とその違いについて適切に説明できるかを問う。